

令和5年度第2回米子市総合教育会議 議事概要

■日時

令和6年3月18日(月) 午後3時30分から午後5時03分

■場所

米子市役所本庁舎4階 401会議室

■議事

- (1) 米子市版コミュニティ・スクールの一体的推進について～地域とともにある学校づくり～
- (2) 米子市における部活動地域移行の経過と今後の見通しについて
- (3) ふるさと教育の推進について～中学校の総合的な学習(探究学習)から～

■出席者

市長 伊木 隆司
教育長 浦林 実
教育委員 白井 靖二
教育委員 上森 英史
教育委員 荒川 陽子
教育委員 塩地 淳子

■出席職員

総合政策部長 八幡 泰治
総合政策部総合政策課長 堀口 修治
総合政策部総合政策課総合戦略室長 遠藤 義英
教育委員会事務局兼子ども政策課長 長谷川 和秀
子ども政策課担当課長補佐 木村 俊文
子ども施設課長 齋木 雅徳
子ども支援課長 長尾 理恵
教育委員会事務局次長兼学校教育課長 西村 健吾
学校教育課課長補佐 仲倉 昭雄
学校教育課担当課長補佐 平野 勝久
学校教育課担当課長補佐 畑野 良幸
生涯学習課長 毛利 公一
スポーツ推進課長 成田 博顕
スポーツ推進課 課長補佐 宇津宮 崇
文化振興課 課長補佐 林 英樹

■傍聴者数

2人

【議事概要】

■議事（1）

米子市版コミュニティ・スクールの一体的推進について
～地域とともにある学校づくり～

米子市版コミュニティ・スクールの一体的推進について～地域とともにある学校づくり～について、資料1及び資料2に沿って事務局から説明。

【委員意見】

- ① コミュニティ・スクールの体制が随分整ってきた。コミュニティ・スクールの定着が各校における課題解決に派生していくと思っており、とても大切な取組。
- ② 放課後の子どもの居場所づくりなども、保護者にとっても子どもにとっても良い取組だと思う。
- ③ 対象を分けた様々な研修会が予定されているのはとても大切で、市民の理解を深めるためにも不可欠。
- ④ 改めて中学校区の目標を見直すことで、中学校区で同じ方向性で地域の子どもを育てるのは、とても大切。
- ⑤ 市長さんには教育予算の確保を引き続きお願いしたい。
- ⑥ 保護者の学校へのニーズが多様化し、教員は多忙化し、地域は人の繋がりが少なくなっている。その中で子どもたちをどう育てていくのかということから、コミュニティ・スクールの取組は始まった。
- ⑦ 市全域でコミュニティ・スクールが始まるが、孤立するところが出るかもしれない。
- ⑧ 公民館には公民館運営審議会があったり、地域を囲むそれぞれの審議会の中で、それぞれが役割を果たしていかないと、子どもの教育は上手くいかないのではないかと。
- ⑨ 教育委員会だけではなく、市をあげて地域で子どもを育てていくために、それぞれの役割分担はどうあるべきか、つながりをどうしていくかという連絡調整を行う協議会的なものが必要ではないかと考えている。
- ⑩ 始めて、やってみないといろんな課題が出てこない。
- ⑪ 事務局には、協議会的なものを作っていただきたい。
- ⑫ スタートで終わりではないので、教育委員会の中で果たす役割を令和6年度、7年度に改定するなど、しっかりと積み上げて、少子高齢化の中でも、子どもたちを社会の一員として、米子の宝としてどう育てていくのか市全体で考えていただくようお願いする。
- ⑬ コミュニティ・スクールの素地は、職場体験からあった。地域の子どもは地域で育てようと鳥取県が始めた。その原点にもう一度立ち返り、地域の方にも指導に入っていたら、企業には子どもたちの職場体験を積極的に受け入れていただきたい。
- ⑭ 地域の子どもは地域が育てるという機運が再度高まればと思う。市長からも機会をとらえて、企業に積極的に受け入れてほしいと伝えていただけたらありがたい。
- ⑮ コミュニティ・スクールについて、まだ一部の方、委員の方々だけが内容を理解されていると感じている。その委員の方を支えるためにも、また、もっとより多くの地域の方にも協力いただけるよう、もっと周知に力を入れてほしい。
- ⑯ 学校には見守りやまち探検など、ボランティアで活躍いただいている地域の方もたくさんおられる。そういった方が安全に活動できるようボランティア保険をもっと広めていただきたい。

【市長】

- ・ 令和6年度から市全域でコミュニティ・スクールが実施される。
- ・ コミュニティ・スクールの取組を進めるには、市民の皆さんの理解が大事である。
- ・ 予算面についても市長部局として、しっかりと取組を推進していけるよう努力していきたい。
- ・ 今後、受け皿がある程度しっかりしたら、市長部局としてサポートしている部分について、地域で、もう少し役割分担ができないかという議論をするフェーズに、いずれは移っていかないと考えている
- ・ 市長部局の負担も限界があると考えている。役割分担の中で、部分的に地域にお願いできないかとか、場合によっては、企業や経済界に役割分担のお願いをする繋ぎ役ができるよう準備を我々もしっかり行っておきたい。
- ・ 地域の子どもたちが、将来、就職につくイメージとして地元企業の名前がなかなか上がってこない。いざ就職をしようとしたときに地元にも選択肢があることが気づかれていない現実がある。
- ・ 例えば、がいな祭りの万灯は、ほぼ企業連だが、これをいつか地域連にできないかと考えている。地域で子どもたちが万灯を上げながら、地域の企業がサポートに回り、小さいころから地域にこういう企業があることを知ってもらえる機会となる。
- ・ コミュニティ・スクールの一つの形として、その地域にある企業にも学校に目を向けてもらい、物心両面における何らかのサポート支援をもらう、そういう機会が作れるような局面がくれば、教育委員会と話をしていきたい。
- ・ 地域の方々に対するコミュニティ・スクールの広報がまだまだ足りていない。コミュニティ・スクールの企画等をより多くの地域の方に知っていただけるよう周知をしっかり行っていただきたい。
- ・ コミュニティ・スクールの委員は、ボランティア活動をされている方のこともよくご存じだと思うので、学校とボランティアスタッフの方々の安全面の確保など、そういった課題を吸い上げて、良い形で進めるようお願いしていきたい。
- ・ 市民への啓発について、コミュニティ・スクールはどういうものか、推進員だけではなく、広く伝えていくことが必要。
- ・ 進めていく中で、支援や取組の評価、社会教育の観点など課題はいろいろでてくると思う。進捗に応じて、その時がきたら対応できるよう準備をしていただきたい。
- ・ 近い将来、いずれくる課題については、我々市長部局もしっかり準備しておきたい。

【教育長】

- ・ 市民への啓発を続けていくとともに、委員の方への研修、情報共有を行っていく。
- ・ スタートすれば終わりではなく、これから始まり。時間差で始まっているし、各地区には地域性もある。それぞれのコミュニティ・スクールがいろいろな走り方をしており、それぞれの取組に適切な伴走支援が求められる。
- ・ 支援をしていくのに現状がどうかという客観的な評価指標を設ける必要があると考えており、そういったものを作っていく。
- ・ 学校に関わっていただく方の成長にも繋がってほしいという思いがある。地域の人づくりにつながればと考えており、社会教育の視点を持った部分を合わせ持ちながら進めていきたい。

■議事（2）米子市における部活動地域移行の経過と今後の見通しについて

米子市における部活動地域移行の経過と今後の見通しについて、事務局から資料3に沿って説明。

【委員意見】

- ① 人材バンクを立ち上げられたが、競技団体によって部活動の受け入れの考え方が違うこともあり、できる競技から始まることになると思っている。

- ② 進めていながら上手くいったことを参考にして着実に進めてほしい。
- ③ 人材確保をするということは費用も必要になると思うので、予算の確保をお願いしたい。
- ④ 市役所の職員の方も指導者として参加されていると伺い、働きやすい環境だと感じた。このことが全国的に広まれば、都会に出ている米子出身の方も米子市は楽しそうだと感じていただけたらと思う。
- ⑤ 教育的な意義や体罰、ハラスメントの根絶が明記された部活動の地域移行の方針が示されるということで、これは大切なことだと思う。学校任せではない点検の体制づくりをしっかり行ってほしい。
- ⑥ 指導者の方が相談できる場所を作っていただけると、指導者の安心につながるので考えてほしい。
- ⑦ 部活動の地域移行が高校の入試等々の評価方法に反映しにくい部分が出てくる。米子市単独ではなく、高校等との体制づくりが大切になると思うので、そういったことをきちんと整理していただきたい。
- ⑧ クラブチーム加入者の移動等の負担、輸送等の負担についても部活動と同様にしていただきたいので、予算の確保をお願いしたい。
- ⑨ 指導者の人材確保についても、例えば春と夏に任期を分けるなど柔軟な対応をお願いしたい。
- ⑩ 国が日本版 DBS を検討されていると思うが、盗撮や性被害など、米子市でそういったことがおきないように対策をとっていただきたい。
- ⑪ 部活動の地域移行は、教育現場の働き方改革の一環として始まりはしたが、現在、地域の中で、どう部活動を対策していくかということになっている。
- ⑫ もともと地域移行は、人口減少により、いろんなものが存続できないから地域移行型や拠点校型など部活動をする子どもに機会を均等に与えられるよう、いろんな形で参加できるようなことにはなってきている。
- ⑬ 米子市は軟式野球をモデル的にやろうということで、1月から人材バンクの登録制度が始まったが、そういった情報が市民に行き届いていないのではと思う。
- ⑭ 競技団体に入って指導している人には情報が入るが、以前競技をしていて、何かに携わりたいと考えている人には情報が届いていないと思うので、人材の掘り起こしも含め、しっかりと広報をしていただいて、野球だけではなく、他の競技の指導員が集まれるようにスタートができればと思う。
- ⑮ コーディネーターも含め昨年度から増となった予算を議会に理解いただき、4月からスタートできるようお願いしたい。
- ⑯ 部活動の地域移行が変化していて、今、どうなっているんだろうと不安になることがある。
- ⑰ 部活動は、先生に教えていただくと学校の様子もみていただいているという安心感が保護者にあった。
- ⑱ 教員以外の方が関わることで不安ということではなく、そこに対して情報が少ないことから不安を感じる。もっと広く周知していただき、市民に説明をしていただけたらと思う。
- ⑲ 市役所職員の方が指導に携わっていただけるのは良いこと。指導員になりたいが仕事で制限がかかってしまう方も、市役所に入れば子どもたちの応援ができる。米子市で働きたいという機運にも繋がるので続けていただきたい。
- ⑳ 子どもがどんどん減少していくが、それを理由にして、子どもたちの学びをとめないでいただきたい。
- ㉑ 子どもたちはたくさんの可能性を持っている。あらゆる部活動ができるように考えていただきたい。他の学校と合同でチームを作ることもあるが、それもきちんと説明していただきたい。
- ㉒ 保護者、地域、市民の皆さんに応援していただくように理解を得て、そういった方々にも子どもたちの成長を一緒に見守っていただきたい。

【事務局】

- ・ 人材バンクについて、軟式野球は今年度お世話になった方に継続して指導に当たっていただけると伺っている。
- ・ 他の競技については、先日、市の広報誌とホームページで広く募集をかけている。今後も人材を集められるよう募集をしたい。

【市長】

- ・当初、国は令和5年度から令和7年度までの3年間を「改革集中期間」とし、3年間で地域移行するとしていたが、令和4年に地域移行の完了時期を定めず、できるだけ早期の移行を目指すに変更された。
- ・全国的にはこの変更を受けて後回しにする動きもあるが、中学生にとって1年は本当に大切な1年であることからできる競技から移行していただいている。
- ・教員以外の人材確保が課題であると説明を受けたが、軟式野球をモデル事業として動き出している。
- ・市役所職員の中には、既にクラブチームを通じて指導者をしている職員がいる。職員がより関わりやすいよう内部規定を変え、仕事を抜けても指導に当たれる制度を作った。
- ・米子市役所で働きたいという動機付けとして、競技を教えたいという方もあるのではと思っている。指導者になれる職員は積極的に地域に出ていってほしいと伝えている。
- ・市役所職員が指導者になることでモチベーションが上がるきっかけになることについて、広く広報していきたい。
- ・高校入試における内申点について、現行の部活動と新たにできた取組について差がないように、県とも県教委を通して適切な形になるよう調整していただきたいし、先行的な他自治体があれば研究して参考にしたい。
- ・部活動の地域移行に係る移動の費用面については、今後、国がどの程度予算付けをするのか不透明だが、国が予算を出すまでは、市としてできる限りサポートができるようバックアップをしていきたい。
- ・移動については、いろいろ工夫をして、子どもたち、指導者も含めて良い形で集まれるようにしていただきたい。
- ・人材バンクの立ち上げに伴い、令和6年度からコーディネーターを配置する予定である。
- ・人材のコーディネートだけではなく、性被害の課題等も含め、問題点を把握して伝える役割を果たすなど、コーディネーターが良い役割を果たせるよう指導していただきたい。
- ・軟式野球は比較的人材が集まっているとのことだが、それ以外の競技の部活動に関しては、まだまだ十分な人材確保ができていないということで、いろいろな機会を通じて、人材の確保については工夫をしていきたい。
- ・良い伝手があれば、そういうところに伺いたいと思うし、伝手がなければ広く広報をかけることが、もしかしたらあるかもしれないが、そのやり方も含めて人材発掘がしっかりできるような体制を整えていきたい。
- ・地域移行が打ち出されて以降、制度・仕組みができるスピードが遅く、不安になられる生徒、保護者がいらっしやと思う。
- ・進捗については、まだできていないことも含め、先生や保護者に対して、できる限り理解いただけよう情報提供していただきたい。
- ・わかりやすく説明していただくと、保護者の方の不安も随分解消すると思う。
- ・整理ができていないところは適切な指導を受けられていない可能性があることは事実だと思うので、人材確保も含め、そのやり方について、引き続き教育委員会を中心に確立していきたい。それまでの間の費用負担は、市長部局において、しっかりとバックアップするつもり。
- ・様々な課題があるが、着実に一歩ずつ歩みを勧めているところを皆さんにご承知いただきたい。

【教育長】

- ・部活動の地域移行については、やっていかないと課題も見つからない。
- ・なかなか進まないというも、それはそれで成果だと思う。
- ・成果をどう評価するのかという話があったが、事務局から県教委にも繰り返し報告をしているし、県教委に私からも改めて同じような立場で声を合わせて伝えていかないといけないと思っている。

- ・部活動の成果としていた、好ましい人間関係を作るとか、自己の肯定感を持つとか、責任感が育つとか、連帯感、こうしたものは地域移行しても、子どもたちにとって大切なことだと思っていて、大事にしたい。
- ・ガイドラインを改定において、全員部活動に入りなさいとは記載していないが、できるだけ入るように推奨するという記載をしている。
- ・部活動に入るとどういふ良いことがあるのか伝えて、それでも入らないという選択肢はあるが、説明もされず、勧められもせずに、知らないまま部活動に入らず終わったということにならないようにしたい。
- ・課題は指導者及び費用の問題。指導者への情報は口コミで少しずつ広まっていると思うが、不十分ということで、皆さんからのご意見をいただいた。指導者になっていただけそうな方にもっと広報をしなくてはいけない。
- ・生徒や保護者は、不安を感じているということをしつかりと受け止め、できる限りの情報提供をしていきたい。
- ・指導者について、技術指導ができれば良いという考え方になると、子どもたちを育むという部活動の意義がずれてくる。
- ・指導者の方もそういったことが心配になるのがよくわかったので、そういった方が不安を解消したプロセスや、思いなどを聞き取って、指導者になってくださるかもしれない方や保護者の方に、指導者が自信をもって、安心して活動できるようになったことも発信しなくてはいけない。
- ・指導者の数をそろえることと、内容面についても中学校の教員と一緒にやってもらって行く中で、少しずつ身につけてもらわないといけない。
- ・費用負担は様々にあるので、いっぺんにということにはならない。
- ・来年度の予算計上させていただいたのは、コーディネーターがある。
- ・合同部活動で教員が指導に入れぬ競技、例えばスイミングスクールのコーチになっていただく方、そういった方たちには部活動の謝金を払えないので、地域スポーツ団体等に委託するための予算も計上いただいている。
- ・少しずつ指導者を増やそうとしている。来年度に、どのようなことをすればどれぐらい予算がかかるのかを考えていかなければいけない、そういったところに一歩踏み込んでいこうと思っている。
- ・市長もやってみようと言っているし、議会からも特段の反対も上がっているように聞いていないので、首尾よく承認可決されたら、そういったことには、すぐとりかかっていたいと考えている。

■議事（3）ふるさと教育の推進について～中学校の総合的な学習（探究学習）から～

ふるさと教育の推進について～中学校の総合的な学習（探究学習）から～について、事務局から資料4及び資料5に沿って説明。

【委員意見】

- ① 探究学習自体が、社会に役立つ力を身につけるものだと思うし、米子のふるさと教育の視点は、米子で育った子が、ふるさとへの誇りや愛着を持つということに繋がると思う。
- ② 中学校での取組が具現化することが話題になったり、そういうものに取り組んできた子どもたちに自信がついてくるのは何よりだと思う。
- ③ 探究学習で付帯的に学べるものとして、主体性、協調性やグループでのディスカッションによるコミュニケーション能力、いわゆる非認知能力が挙げられる。これは、人間とAIが関わる社会で人間が何より優れているものだと思う。
- ④ 非認知能力の醸成が学校の課題研究によってできるというのはとても素晴らしい取組だと思う。子どもたちがその力を持って社会に出るのは嬉しい。

- ⑤ 小学校に上がるまでの幼児教育の視点でも、早期の非認知的能力の獲得が非常に重要ということで、睡眠の視点から生活のリズムを整えることで醸成されるということを検証されていると聞いている。
- ⑥ 非認知的能力の醸成にはある程度、睡眠が大事だということは一般的に言われてはいたが、どうしてそうなのか、科学的根拠と合わせて、例えば健診等で伝えられたら良いと思う。
- ⑦ 小学校に上がるまでに非認知能力を養いながら育ち、さらに小学校、中学校、高校で、より強く醸成させていくとAIに負けない子どもが育つのではないかという夢を持っている。
- ⑧ 小学校からタブレットが活用がそもそもできないといけないので、段階をそろえて校区で足並みをそろえて成長して、中学校でさらに取り組んでおられるので、引き続き頑張ってもらいたいと思う。
- ⑨ ふるさと教育について、市の行政の方々が子どもたちにすぐ関わってくださっているのが、嬉しく思った。
- ⑩ ふるさとキャリア教育で、子どもたちがふるさとの自然や文化を見つける、そこに大人が関わって、人との繋がりの中で子どもが育っていくと良いと思う。
- ⑪ 一昔前までは、子どもが普段出会う大人が、親と先生ぐらいしかいない中で育ってきて、それが子どもたちが将来になりたい職業とか、そういったことを考える機会が少ないことにつながったのではないかな。
- ⑫ 子どもたちに、米子のどこが好きと尋ねた時に、いつか「米子の人が好き」とか、関わってくれた大人を見て、「こういう人になりたい」と言ってくれる子どもが育つふるさと教育であってほしい。
- ⑬ 子どもたちがいろんな経験をする中で、やる気スイッチが入るのは、大人や友人に認められたときではないか、ただ綺麗な景色を見ているだけではそれ以上のことは無いのではないかな。
- ⑭ これからも様々な取組を行っていただき、行政だけでなく、地域の企業からも課題の提案を受けたり、大人から頼りにされる、認めてもらえるような学習になると、さらに米子を好きになる子どもたちが増えるのではないかなと思う。
- ⑮ 子どもたちにはたくさんの経験や体験を積み重ねて、いろんな壁にぶつかって失敗して、様々な行動を自分たちで探ってもらいたい。
- ⑯ 子どもたちが壁にぶち当たったときに、相談できる大人、地域の人に私自身もなりたいたいし、そういうたくさんの子どもの不安だったり、素朴な疑問だったり、一緒に寄り添って考えていけるようなまちになってほしい。
- ⑰ 子どもたちが米子のことを好きになってほしいという気持ちがあるが、まず、子どもたちがそう思えるように、私たち大人が米子は良いところだよと、私たち自身が誇りをもって好きだという姿勢を持ちたいと考える。
- ⑱ おそらく皆さんは米子が好きだと思う。それを毎日、口に出して言うことではないが、食べ物だったり、人間関係だったり、心地よいから、私たちは米子に住んで生活を続けている。その中で子どもたちも育っている。
- ⑲ そういう環境を子どもたちを支えながら先輩方が米子を守ってくれた。時にはいろんなことを注意したり怒ってくれたり、そういう環境の中で私自身も育ってきたし、そういう中で子どもたちに育ってほしいと考えている。
- ⑳ 市長からミッションを子どもたちに投げかけたことで、子どもたちはどうやって解決しよう、どういう視点で取り組んだらいいのかなど、いろんな思いを巡らせ、夢や希望をもって考えたと思う。
- ㉑ 企業も子どもたちにいろんな問題を投げかけてほしいと思う。
- ㉒ 企業の方からいろんなアドバイスを直接いただき、時にはその考え方は甘いとか現実を教えたり、その積み重ねで成長して、自分の夢や希望が具現化していくんだと思う。そういう機会をもっとたくさん作っていただきたい。
- ㉓ 米子市の教育行政によるふるさと教育は非常にできていると思っている。
- ㉔ 小学校ではまち探検、中学校では地域の企業への職場体験、自然を楽しむなら大山など、地元の本当に良いところをこちらから与えれば、その良さを子どもたちは受け止める。
- ㉕ 地元にいるときは気づけないけど、県外に出て他の地域と比べたときに、米子はこういうところが本当に良かったんだと思う。
- ㉖ 道徳教育の中でも、米子出身の人物を題材にして学校教育で教えてもらいながら、そういうことも含め米子を知るということを教育行政でやってきている。

- ⑳ 職場体験に来たとき、こうだよと教えると子どもたちは目を輝かせている。そういう意味では、米子市版の切れ目のない教育が、このふるさと教育の中にも行われてきているのではないかと感じている。
- ㉑ 高校生の取組も紹介いただいたが、また少しステップアップしたなと思っている。
- ㉒ 中学生と違って高校生の考えというのは、新しいことかそういうことに視点が及ぶ。そういうところに視点を置いていただいた市長さんに感謝を申しあげる。
- ㉓ 人口減少で子どもたちが減っていくが、こうした良い教育を続けていくために、教育支援も含めた子育て支援をしっかりしていただけたらと思う。
- ㉔ 子育てや学校教育も含めた教育支援について、もう少し充実していただければ、こうした素晴らしい教育が繋がっていくのではないかなと思う。
- ㉕ 先日策定された中海圏域定住自立圏共生ビジョンについて、教育に関することがちょっと薄い気がする。この地域で子どもたちをどう育てていくかということ、そういうことも提案していただけたらと思う。
- ㉖ 現状の学校だけではなくて、定住人口として高校生を呼び込む。例えば日南町は林業が盛んで、そうした学校で育った子どもが半分ぐらいは定住につながっており、米子版というものを考えていただけたらと思う。
- ㉗ 弓ヶ浜に小中一貫校ができる。これは人口減ということではなく、小学校も中学校も他にない教育ができて、特徴がある教育をまちづくりも兼ねて一緒にしていくなど、また提言いただけたらと思う。
- ㉘ お金が無い中でも知恵を出して一生懸命やっている事務局を誇りに思っているので、例えば、減税等などにより移住を促進して、米子市は、そういうことも含めた教育行政も合わせて進めていただけたらと思う。

【市長】

- ・ もともとふるさと教育については、米子のまちに対する誇りを持ってもらおうというところに大きな狙いがあるが、これが各学校でやっておられる、総合学習、探究学習と良い形で結びついていると感じている。
- ・ 探究学習の中で、生徒たちが地域の中の課題を自分たちで見出し、その答えを自分たちで導き出すという、私たちにとって必要な能力を養うことを探究学習、総合学習の中でやっている実態がある。
- ・ 東山中学校の生徒の研究成果発表において、リサイクルを楽しく学べる日めくりのカレンダーを提案いただいたが、これが非常に出来が良かったので、先般、製品化し、発案した学生に渡し、小学生にも配りながら学習してもらおうと話をさせていただいた。
- ・ 市内の中学生だけではなく高校生にも参加していただいたイベントがあったが、高校生から非常に実践的で、素晴らしい提案が次から次へと出てきた。
- ・ 高専の学生には、駅の南側の目久美公園の再整備について、どんな設計が良いか考えてもらったら、非常に素晴らしい設計が出てきて、これはぜひ実践をということで、公共工事に取り入れていこうと思ったところ。
- ・ ふるさと教育を通じ、ふるさとに対する誇りや愛着の醸成を図ることはもちろん、将来、自分たちが中心になってまちを作っていけるという思いを持ってもらえたら、より良い取組になっていると思えばいい議題にあげさせてもらった。
- ・ AIの時代が到来しており、様々な知識はコンピューターによって大体できてしまう、そういう時代に入っている。
- ・ 考えたり、工夫したり、コミュニケーションを取ったりなど、いわゆる非認知的能力は、AIは身につけることができないので、こうした力を持った子どもたちの育成は、米子市にとって大切な取組である。
- ・ コミュニティ・スクールと密接な部分があり、子どもたちが学習していく大人との関わりの中で、もっと地域の人を好きになってほしい、そのあたりを意識しながらこれから進んでいければと思う。
- ・ 子どもたちは様々な経験をする権利があるし、失敗する権利もある。必ずしも答えを見いだせない課題に対し、試行錯誤をしながら自分たちなりの答えを導いていく、そういうプロセスを子どもたちに積んでいただけたらと思う。
- ・ 地域の大人にしっかり関わっていただくためにも、こうした仕組みを理解して続けられるよう我々も取り組んでいきたい。
- ・ ふるさと教育について、こうした取組を引き続きブラッシュアップしながら進めていただきたい。

【教育長】

- ・ 市として各学校の様々な活動にご協力いただいていること、市長自らが子どもたちに課題を与えるなど教育を推進していただいていることについて、感謝を申し上げます。
- ・ ふるさとの良さを知るといのは、受け身的なことに留まらず、自分たちのまちをどうしていくかという主体的な動き、考えを持つということが、今後の子どもたちに大きく役立つと考えている。
- ・ 小学校は小学校、中学校は中学校と発達段階に応じて育っていく。小学校、中学校とさらに高めていけば高校生でのさらなる高みに届くことを期待している。
- ・ これからの時代、ますますその場で課題を見つけて、どう解決すればよいのか知恵を絞って、一定程度の方向性を見つける力をつける、そういった教育につながるよう、小学校、中学校としっかり育てていきたい。
- ・ 将来、市長になって米子をよくしたい、市役所に入って部活動の指導をしたい、あるいは教員になって米子の教育をもっと進めたい、そんな子どもたちが増えてくることを遠くに見据えながら進めていきたい。